

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

|       |                    |      |        |       |             |        |        |
|-------|--------------------|------|--------|-------|-------------|--------|--------|
| 事務事業名 | 教育普及事業             | 会計   | 一般会計   | 事業No. | 826         | 施策順No. | 29-014 |
|       |                    | 事業種別 | 政策・その他 | 予算科目  | 10-5-6-11-5 |        |        |
| 政策    | 2 地育力によるこころ豊かな人づくり |      |        | 課等名   | 美術博物館       |        |        |
| 施策    | 29 ふるさと意識の醸成       |      |        | 事業期間  | 開始          | 1      | 終了     |

1 事業の目的

|                               |   |   |        |        |        |        |        |  |
|-------------------------------|---|---|--------|--------|--------|--------|--------|--|
| 事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです    | 対象  | 1 飯田下伊那広域圏の地域住民(一般市民、高校生、小中学生)。<br>具体的な数値で表すと(対象指標) | 19年度   | 20年度   | 21年度   | 22年度   | 23年度   | A十分達成した<br>Bどちらかといえば達成した<br>Cどちらかといえばできていない<br>Dほとんど達成できていない |
|                               | 誰、何に  | 圏域住民数(人)  |        | 177000 | 177000 | 177000 | 177000 |  |
|                               |   | 圏域の児童・生徒の数(人)                                       |        | 15445  | 15327  | 15041  |        |  |
|                               | 意図  | 1 館の調査研究の成果を市民に還元し、あるいは支援して、自然・文化・芸術への関心と理解を高める。    |        |        |        |        |        |  |
| 対象をどう変えるか                     | 事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)  | 19年度実績  | 20年度実績 | 21年度実績 | 22年度目標 | 22年度実績 | 23年度目標 | 目標達成度  |
|                               | 主催事業あるいは館・学芸員が関わった教育普及活動の数(回) (*プラネタリウム上映・考古博物館は除く)               | 320   | 318    | 347    | 330    | 307    | 330    | B  |
|                               | 主催事業あるいは館・学芸員等が関わった館内外事業の参加者数(人) (*プラネタリウム上映・考古博物館は除く)            | 12395   | 11031  | 11879  | 12000  | 13196  | 12000  |  |
| 22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】 | 例年通り数多くの主催事業をおこなうとともに、館外の招聘に積極的に応えた。回数こそわずかに減少したものの、目標は達成できたといえる。 |   |        |        |        |        |        |  |

2 手段(具体的な取り組み内容)

|              |  |  |  |
|--------------|--|--|--|
| 事業の制度(仕組み)説明 | 1 美術博物館の調査研究活動の中で蓄積された研究結果や情報、展覧会などで展示される作品や資料について、その特性や魅力を講座・講演会などで紹介する。<br>2 子ども向けの講座・教室・学校訪問などを実施し、伊那谷の自然と文化への学習意欲を高める。<br>3 小中高校・大学・かわらんべ・地域のまちづくり委員会・地域サークルなど諸機関・諸団体の要請に応え、授業や講演・現地案内などを行う。<br>4 伊那谷の希少生物生息地・露頭・遺跡・社寺・歴史・民俗などの保存と活用に関する事業を行う。具体的には飯田城址の歴史的景観の研究と整備、ハナノキ湿地希少植物群落の調査と整備、南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの研究と整備を地域住民と共同しながら実施する。                                     |  |  |
|              | 事業内容   | 名称   | 活動量・単位   |
| 22年度事業内容     | 1 館主催の事業 (1)一般向けの催し(美博特別講座・自然講座・文化講座・美術鑑賞の会・講演会・見学会・研究活動報告会・自然史発表会など)を開催。(2)子供向けの催し(科学工作教室・子ども美術学校・宇宙をのぞこう・親子天文教室・夏休み自然相談教室など)を開催。<br>2 館主催以外に館ないしは学芸員が館内外で参加・支援した事業(地域や団体の事業、学校の授業・学会発表など)の開催。<br>3 第5回美博まつりの開催(7/31・8/1)<br>4 第3回学芸祭の開催(3/20)<br>5 「御池山隕石クレーターガイドブック」作成<br>6 地域の研究者等が活用できる図書環境の充実  | 1 開催数/参加者数<br>2 開催数/参加者数<br>3 開催日数/参加者数<br>4 開催日数/参加者数<br>5 作成部数<br>6 購入冊数       | 1 130回/6,204人<br>2 200回/5,500人<br>3 2日/1,601人<br>4 2日/135人<br>5 500部<br>6 48冊、5セット |
| 23年度実施計画     | 1 館主催の事業 (1)一般向けの催し(美博特別講座・自然講座・文化講座・美術鑑賞の会・講演会・見学会・研究活動報告会・自然史発表会など)を開催。(2)子供向けの催し(科学工作教室・子ども美術学校・宇宙をのぞこう・親子天文教室・夏休み自然相談教室など)を開催。<br>2 館主催以外に館ないしは学芸員が館内外で参加・支援した事業(地域や団体の事業、学校の授業・学会発表など)の開催。<br>3 第6回美博まつりの開催<br>4 第4回学芸祭の開催<br>5 「ガイドブック」作成<br>6 南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク内に屋外解説パネルを設置。(新規、合併特例補助金対象事業) 遠山地域の自然の魅力や災害の教訓、山村の知恵などを、観光客や地域住民に正しくかつ分かりやすく紹介するために、屋外解説パネルを設置する。 | 1 開催数/参加者数<br>2 開催数/参加者数<br>3 開催日数/参加者数<br>4 開催日数/参加者数<br>5 作成部数<br>6 屋内解説パネル設置数 | 1 130回/6,500人<br>2 200回/5,256人<br>3 2日/1,601人<br>4 2日/135人<br>5 500部<br>6 3箇所      |

3 事業コスト

|             |       |       |         |         |         |   |
|-------------|-------|-------|---------|---------|---------|---|
| 事業費         | 特定財源  | (千円)  | 22年度予算額 | 22年度決算額 | 23年度予算額 | 特定財源内訳、補足事項<br>【22特定財源】(国)住民生活に光をそそぐ交付金(県)市町村合併特例交付金(そ)諸収入<br>【23特定財源】(県)市町村合併特例交付金(そ)諸収入 |
|             | 国庫支出金 |       | 1,700   | 1,700   |         |   |
|             | 県支出金  |       | 1,000   | 919     | 1,500   |   |
|             | 起債    |       |         |         |         |   |
|             | その他   |       | 586     | 419     | 1,035   |   |
| 一般財源        |       | 2,761 | 2,761   | 2,623   |         |   |
| 計(A)        |       | 6,047 | 5,799   | 5,158   |         |   |
| 正規職員所要時間    |       |       |         |         |         |   |
| 臨時職員等所要時間   |       |       |         |         |         |   |
| 人件費計(B)     |       |       | 0       |         |         |   |
| トータルコスト A+B |       |       | 5,799   |         |         |   |

4 事業に対する市民や議会の意見

|   |
|---|
| 1 美博の講座はテーマが地域に関わり深く、参加しやすいとの感想が参加者から寄せられた。 |
| 2 美博と同様な講座を、地域で開催してほしいという依頼があった。            |
| 3 美博まつりについて、第2回で苦情が寄せられた点が改善でき、参加者に好評であった。  |

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

|                    |        |                  |                |
|--------------------|--------|------------------|----------------|
| 行財政改革の取組区分         | 【記載不要】 | 具体的な取組事項         | 【政策的事業のため記載不要】 |
| 21年度決算と比べての効果額(千円) | 【記載不要】 | 効果額説明(算出根拠)、特殊要因 | 【政策的事業のため記載不要】 |

6 前期4年間の取組評価(総括)

| 上位の施策への結びつき   | 上位施策の目的  | 1 地域を知る<br>2 地域を誇りに思う   | 施策の成果指標又はムトス指標 | 1 飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(延べ人数)<br>1 ふるさと(飯田)を誇りに思っている市民の割合 |
|---|----------|---|----------------|---|
| この事務事業は施策の目的達成にどのような貢献しましたか   | 4年間の振り返り | 美術・人文・自然に関する数多くの講演会・講座・見学会等を開催でき、地域を知る、地域を誇りに思うという目的に大いに貢献できた。  |                |   |
|   | 後期に向けた課題 | 春草没後百年にあわせた春草講座など時機を得た講座等の開催に一層努める。   |                |   |
| この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか  | 4年間の振り返り | 学芸員や地域研究者が講師となるよう努めた。美博内にとどまらず外部からの招聘にもできるだけ応えた。美博まつりは5回を数えて市民の中に定着。学芸祭も3回を数えて形が整いつつある。また、長野県立歴史館との共催による講座を開設するなど、他館や大学・研究者等との連携に努めている。 |                |   |
|   | 後期に向けた課題 | 学校や公民館等との連携をさらに深めることが大切である。参加者を募る広報にいま一つ工夫が必要である。更新されたデジタルプラネタリウムをうまく活かす必要がある。  |                |   |
| コストを削減するためにどのような工夫をされましたか   | 4年間の振り返り | 学芸員自らが講師となることで講師料等のコストを押さえた。  |                |   |
|   | 後期に向けた課題 | 参加者を増やすことで、参加者1人あたりのコストをさらに押さえ、事業の成果をより高める必要がある。  |                |   |
| 受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか  | 4年間の振り返り | 美博の教育普及事業は、特別な材料費等を除き、基本的に受講料は無料である。広く開かれた社会教育の面からみても、市の関与は当然である。   |                |   |
|   | 後期に向けた課題 | 先に同じ。   |                |   |
| 多様な主体の役割の発揮状況<br>①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。<br>②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮してましたか | 4年間の振り返り | 飯田の自然・歴史・文化に関心を寄せる市民が参加し、それへの誇りを高めた。市はその場を提供し、学習を高めた。   |                |   |
|   | 後期に向けた課題 | 飯田の自然・歴史・文化に無関心な市民に対しても、参加を呼びかけ、関心を高め、誇りに思う気持ちを高める必要がある。  |                |   |
| 全体を通じて  | 4年間の振り返り | 本館の教育普及活動は、内容が多義にわたり開催数も多く、参加する市民も年々増加傾向にある。その点では、かなり活発といっている。  |                |   |
|   | 後期に向けた課題 | 他館や大学等との連携を深めて内容をさらに濃くするとともに、学校や公民館等とも連携して効果をより高めたい。また、更新されたデジタルプラネタリウムをうまく連携させて進める工夫が必要である。  |                |   |

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

|                      |    |                    |    |                       |    |
|----------------------|----|--------------------|----|-----------------------|----|
| 事務事業を統合・分割する必要はありますか | ない | 対象や意図を修正する必要はありますか | ない | 成果指標や指標値を修正する必要はありますか | ない |
|----------------------|----|--------------------|----|-----------------------|----|

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

|                             |                             |                             |                                 |                               |  |                                |  |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------------|--|--------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 完了 | <input type="checkbox"/> 拡大 | <input type="checkbox"/> 縮小 | <input type="checkbox"/> 別事業に統合 | <input type="checkbox"/> 休止廃止 | <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 | <input type="checkbox"/> 目的見直し | <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------------|--|--------------------------------|--|